

日銀当座預金残高目標の引き上げによる長短金利差への影響

英 邦広

〈要 旨〉

本稿では日本銀行が採用した量的緩和政策によって短期、中期、長期の金融市場での長短金利差のレベルとボラティリティがどのように影響を受けたかを AR-EGARCH (Autoregressive-Exponential General Autoregressive Conditional Heteroskedasticity) モデルを利用して分析した。分析結果として、日銀当座預金残高目標を追加的に増加させることで長短金利差のボラティリティを低める効果が得られた。この結果は、ゼロ金利政策が解除されたときから量的緩和政策が解除されたときまでと量的緩和政策を実行したときから量的緩和政策が解除されたときまでの2つの分析期間でともに支持され、頑健的な結果であると判断できる。

© Japan Society of Monetary Economics 2011